



ことば便り



墨田区立押上小学校
校長 島田 和久
ことばの教室 NO. 3
TEL 03-3617-6925
令和5年6月1日(木)



紫陽花が美しい季節となりました。恵みの雨ではありますが、雨が降り肌寒かったり蒸し暑かったりと、寒暖の差に体調も崩しやすい時期です。睡眠・食事をしっかりとって元気に通ってきてください。

6月

6・7月の行事予定

7月

1日(木) 在籍学級訪問開始
2日(金) **専門家診断** ※午後の指導はお休みです
6日(火) 都難言協専門研究会(午後)
7日(水) グループ指導(吃音)(15時半～16時半)
13日(火) 都難言協江東ブロック研究会(午後)
20日(火) 区難言教育担当者会(午後)
24日(土) 押上小土曜授業「ことばの相談日」
27日(火) 通級指導学級研究会(午後)
28日(水) **専門家診断** ※午前の指導はお休みです

4日(火) 都難言協専門研究会(午後)
5日(水) グループ指導(吃音)(15時半～16時半)
8日(土) 押上小土曜授業
11日(火) 都難言協江東ブロック研究会(午後)
12日(水) お楽しみ会(15時～16時半)
14日(金) **夏休み前 個別指導終了**
18日(火) 保護者会(講演会)詳細は後日
21日(金) 夏季休業日始
21日(金)～27日(木) 通級補充日

※水泳の授業時間と通級の時間が重なる場合は、振り替えをしますのでご連絡ください。

○在籍学級訪問を行います

6月1日(木)から、在籍学級訪問を実施します。授業参観後、在籍学級担任の先生方と情報交換を行います。日程を打ち合わせ、文書にてお知らせします。変更が必要な場合はご連絡ください。お忙しいとは思いますが、当教室での支援に生かしたいと考えていますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

○保護者講演会のお知らせ

7月18日(火)にアナログゲーム療育アドバイザーの松本太一先生の講演会を実施します。

親子で遊ぶ機会をどれだけもてていますか? 今回は、子供の発達とアナログゲーム(トランプやその他の机上のカードゲームなど)の関係、療育に生かす遊び方などについてご講演いただく予定です。詳しくは後日案内を配布いたします。ご予約に入れておいてください。

- ◆ 日時 7月18日(火) 9:40～11:45 実際に遊んでみる時間もあります。
- ◆ テーマ 「アナログゲーム療育 ～ルールの守り合いを通じて成長する～」

○「ことばの相談」を実施します

土曜学校公開日に合わせて「ことばの相談」を実施します。お子さんの様子で以下の点についてご心配がありましたら、お気軽にご相談ください。その他、施設の見学ができます。事前に連絡の上、お越しいただくとスムーズです。

- ・「かめ」が「ため」、「き」が「ち」など発音の誤りがある。
- ・年齢の割に話し方が幼い。言葉が少ない。
- ・「ぼぼぼ、ぼく」「ぼーくね」となる、つまってことば
- ・文字の読み書きが苦手。練習しても身につかない。文字を正確に写せない。 など
- ・「かめ」が「ため」、「き」が「ち」など発音の誤りがある。
- ・年齢の割に話し方が幼い。言葉が少ない。
- ・「ぼぼぼ、ぼく」「ぼーくね」となる、つまってことば
- ・文字の読み書きが苦手。練習しても身につかない。文字を正確に写せない。 など

- ◆ 相談日: 6月24日(土) 9時30分～11時30分
- ◆ TEL3617-6925(教室直通)

(上記以外でも、随時相談を受け付けております。その場合も、まず電話での連絡をお願いします)

発音の指導について

ことばの教室では以下のような指導をしています。



◆発音の誤りって？

発音の誤りには、大きく分けて、特定の音が他の音に置き換わるもの（サカナ→タカナなど）と、他の音で表しにくい「歪み」になるものがあります。また、舌や口唇などの発音に必要な器官の動きの不器用さから、全体的に不明瞭になることもあります。

発音の誤りがあると、相手に伝わらない経験などから自信を失ったり、言い直しや注意をすることで発音を気にするようになり話さなくなったりします。無理に発音しようとして、かえって不自然な力の入った癖がついてしまうこともあります。誤りを意識しすぎたり癖が固定してしまったりする前に、早期に改善のための専門的な練習を受けることが大切です。

◆どんな指導をするの？

まず、子供一人一人の発音や発語器官の動きなどの状態を正しく把握し、なぜ誤っているのか分析し、どのように改善に導かせるか方針を立て、指導を行っていきます。指導の内容は、大きく分けて4つあります。

1 音を聞き分ける力をつける

正しい音と誤り音を自分で聞き分けられるようにします。そのことにより、誤った自分の発音を修正する力がつきます。



2 舌や唇など発語器官の動きをよくする

正しい発音のためのベースになります。舌や唇の動きをコントロールする練習や舌の筋力を高める練習、舌の力を抜く練習などを行います。舌でグー・チョコ・パーの形を作った舌ジャンケンなど、楽しく練習するようにしています。家庭では、うがいやお菓子を使った練習などお願ひしています。



3 正しい音を作るための練習

練習音によって方法は変わります。

- 音を作るのに必要な呼気の調節ができるようにします。風車、シャボン玉、ストローなどの吹く練習を行います。
- 鏡を見て舌の位置を確かめたり、発音できる他の音を利用したりして正しい音を導きます。安定して発音できるようになるまで何度も繰り返し返します。100回、200回続けるのは大変なので、双六などを取り入れ、楽しく反復練習できるようにしています。



4 単語、短文、文章、会話へと練習を進めます

単音で正しく発音できても、前後に他の音が続くと正確に発音できません。語頭に練習音がつく単語から始めて、語尾、語中と練習し、単語でできるようになったら練習音を多く含む短文へ、さらに文章へと練習を進めます。その頃には会話で正音が見られるようになりますが、意識を向けさせながらの会話練習なども行います。



滲出性中耳炎や片耳難聴について



滲出性中耳炎は、子供に多い「鼓膜の奥に液体が溜まる」中耳炎です。普通の中耳炎と違い、痛くないので気付かれずに症状が進み、軽度の難聴の状態になることも多いです。学級のざわめきの中では聞こえにくいことがあり配慮が必要です。水泳指導が始まる前に、悪化しないよう速やかに耳鼻科での治療を行うことが大切です。片耳だけが聞こえにくい片耳難聴の場合も同様で、騒音下では聴き取りにくかったり、音源の方向がつかみにくかったり、疲れやすくなったりします。いずれも、気軽に聞き返せる、できるだけ静かな環境にする、座席配慮をする、文字などで表記するなどの配慮が大切です。